



★八王子中だより★

★学校教育目標 『 大志を抱け ひとみ輝く 八中生 』

～ 賢く 豊かに 逞しく ～

★令和8年10月1日(木) さいたま市立八王子中学校学校だより 10月号

★HP アドレス <http://hachioji-j.saitama-city.ed.jp/> (生徒の学校生活の様子等をHPにアップしています)



見えない努力

校長 酒井 和浩



9月は気温の寒暖差が激しいうえ、台風や長雨等もあり、気候上過ぎにくい日々が続きました。このような状況では体調も崩しやすいですが、生徒は元気に学校生活を送れており、「健康第一」という言葉を実感した月となりました。

シルバーウィークに私の地元にある小石川後樂園を訪れました。目の前には東京ドームや高層ビルがあり、まさしく都会のオアシスという場所です。また、自分が高校生の時に、隣にある小石川運動場

で体育祭を行ったこともあり、久しぶりの景色に懐かしさを感じました。

小石川後樂園は、水戸徳川家の上屋敷内の庭で、初代藩主・頼房が日本各地の景勝を模して創設し、二代藩主・光圀が儒教的思想を反映させた中国趣味を取り入れて完成させました。各エリアにはそれぞれ趣が見られ、心が落ち着く雰囲気がありました。残念ながらまだ紅葉には程遠く、木々の葉は一部がうっすらと黄色味を帯びていましたが、緑の地面には赤いヒガンバナがきれいに咲いていました。

ヒガンバナは「曼珠沙華（まんじゅしゃげ）」とも言われ、この名前では埼玉県日高市の巾着田を思い出す方もいるかと思います。また、「葉見ず花見ず」という別名もあり、花が咲いているときには葉がなく、葉が伸びているときには花がないことに由来しています。秋のお彼岸の頃、地面から突然のように花茎が伸びて鮮やかな花を咲かせますが、そのとき葉は見当たりません。花が終わると今度は細長い葉が現れ、冬の間に太陽の光を受けて栄養をつくり、その栄養を球根に蓄えます。そして翌年の秋になると、その蓄えた力を使って再び美しい花を咲かせるのです。

見方を変えると、私たちの目に映るきれいな花は、実は見えないところでの長い準備によって支えられているのです。つまり、きれいな花を咲かせるには、葉が冬から春までの間に蓄えた養分が土台となっており、葉の長い時間をかけた「見えない努力」がなくては、きれいな花を咲かせること自体できないということです。人の成長も同じです。例えば、テストの点数や大会の結果は目に見えますが、その裏には日々の努力や練習があります。よい結果を求めるには、長い時間をかけて準備をし、土台を作り上げていくことが必要です。もちろん、すぐには成果として表れないことが多いですが、今積み重ねている学習や経験は、ヒガンバナの葉が養分を蓄えるように、将来大きな花を咲かせるための大切な力となります。

「見える成果」の前には、「見えない努力」がある。ヒガンバナは、そんなことを私たちに教えてくれているのではないのでしょうか。

先月24日(木)から、市新人体育大会が開催されています。運動部の生徒はこれまでの努力を発揮して大会に臨んでくれています。今回の結果がどのようなものであれ、その結果を踏まえ、「見えない努力」を今後も継続して、次回の大会では「見える成果」に結び付けてほしいと思います。今後の生徒の成長が楽しみです。